

令和7年度「横浜の水道に関する意識調査」の結果をお知らせします

水道局では、水道をご利用いただいている方の水の使用状況や水道事業に関する考えなどをうかがい、より質の高い水道サービスの提供を検討するため、概ね3～4年に1度、「横浜の水道に関する意識調査」を実施しています（前回調査は令和4年度）。このたび、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

今後、安全で良質な水の供給や水道施設の更新・耐震化等、水道局の施策・事業の推進に活用していきます。

<調査結果の主な POINT>

1 横浜市の水道事業についての満足度

「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合
 市民 **93.4%**（前回調査より **5.0 ポイント↑**）
 事業所 **91.3%**（前回調査より **1.7 ポイント↑**）

2 横浜市水道局の取組について満足している点

市民・事業所ともに、上位3項目は、
「安全で良質な水の供給」「断水・減水・濁水のない安定した給水」「水源の保全」

3 日頃、主にどのような水を飲んでいるか

「水道水をそのまま飲む」「浄水器をとおした水を飲む」を合わせた割合
 市民 **70.1%**（前回調査より **1.9 ポイント↑**）

4 水道水の安全性についてどのように感じているか

水道水を「安全だと思う」「どちらかといえば安全だと思う」を合わせた割合
 市民 **96.0%**（前回調査より **1.6 ポイント↑**）

5 災害に備えた飲料水の備蓄量

災害時の必要な目安である「1人あたり9リットル以上備蓄している」割合
 市民 **28.6%**（前回調査より **0.8 ポイント↑**）
 事業所 **30.0%**（前回調査より **10.6 ポイント↑**）

6 横浜市水道局の今後の取組で特に力を入れるべき事項

市民・事業所ともに、上位3項目は、
「安全で良質な水の供給」「水源の保全」「断水・減水・濁水のない安定した給水」

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



<調査の概要>

区分	市民	事業所
調査地域	横浜市全域	
調査対象	横浜市内に居住する18歳以上の方4,000人	横浜市内の水道利用者1,000事業所
抽出方法	住民基本台帳 からの無作為抽出	給水サービス事務オンラインシステム からの無作為抽出
調査方法	郵送配布、郵送回答またはインターネット回答	
調査期間	令和7年9月1日(月)～9月16日(火)	
有効回答数	1,550 標本 (38.8%)	230 標本 (23.0%)

詳細な調査結果は、横浜市ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/suido-gesui/suido/torikumi/yoriyoi/ishiki-cyosa.html>



お問合せ先

水道局経営企画課長 森兼 孝司 Tel 045-671-3119



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



令和7年度 調査結果の概要

1 水道事業についての満足度、満足している点

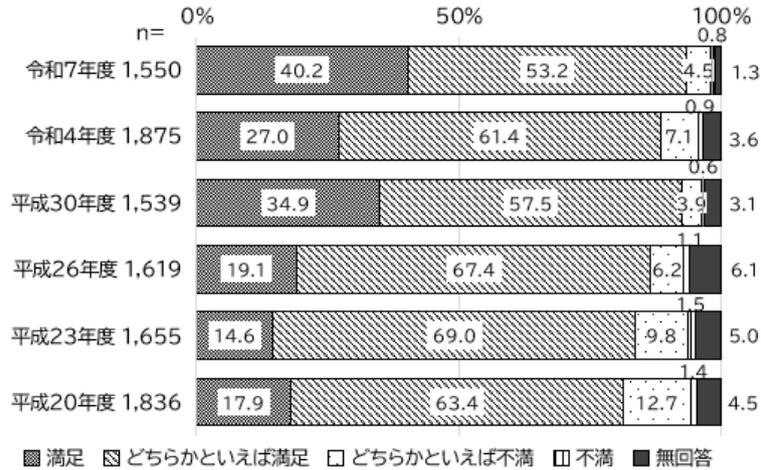
〈市民〉問1 横浜市水道局の水道事業についての満足度を教えてください。(〇は1つだけ)

★POINT：93.4%が、概ね満足と回答（前回調査より5.0ポイント増加）

「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、令和7年度は93.4%となっており、前回調査（令和4年度）の88.4%から5.0ポイント増加しています。

「満足」については令和7年度が40.2%で、前回調査より13.2ポイント増加しています。

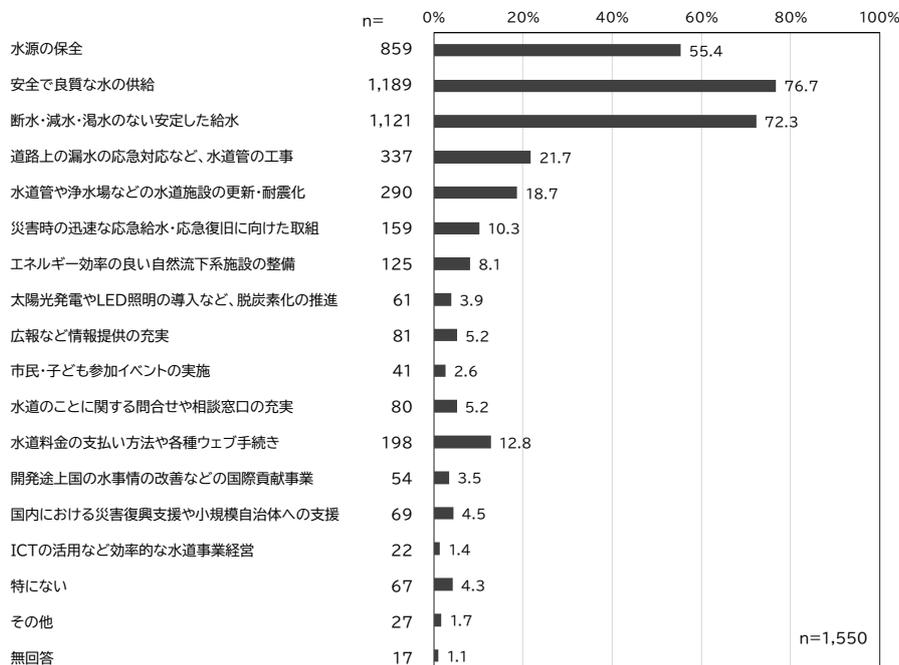
平成20年度以降、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、概ね増加傾向にあります。



〈市民〉問2 横浜市水道局の取組について、満足していただいている点はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

★POINT：「安全で良質な水の供給」「断水・減水・濁水のない安定した給水」「水源の保全」が上位3項目

横浜市水道局の取組について、満足していただいている点として、「安全で良質な水の供給」76.7%、「断水・減水・濁水のない安定した給水」72.3%、「水源の保全」55.4%の順に割合が高くなっています。

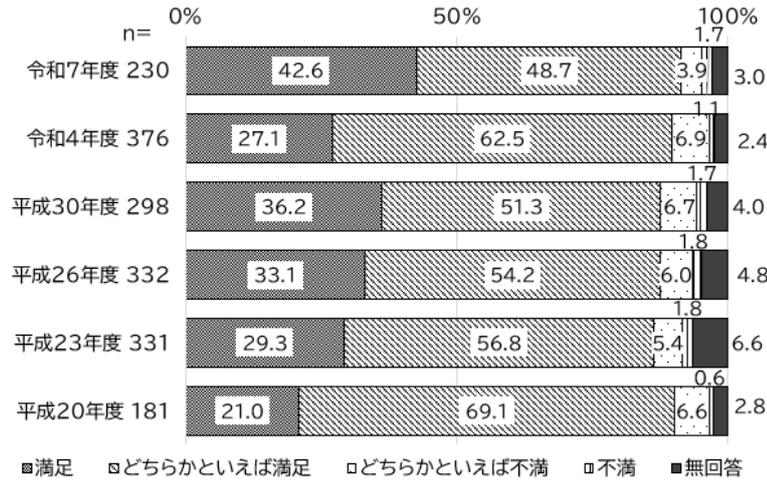


〈事業所〉問1 横浜市の水道事業についての満足度を教えてください。(〇は1つだけ)

★POINT：91.3%が、概ね満足と回答（前回調査より1.7ポイント増加）

「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、令和7年度は91.3%となっており、前回調査の89.6%から1.7ポイント増加しています。

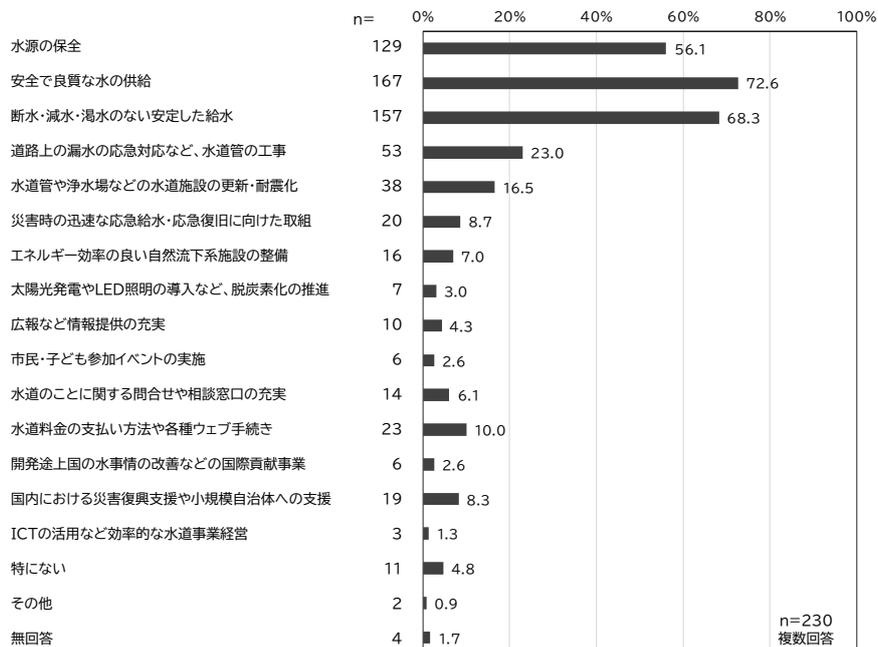
「満足」については令和7年度が42.6%で、前回調査より15.5ポイント増加しています。平成20年度以降、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、高水準で推移しています。



〈事業所〉問2 横浜市水道局の取組について、満足していただいている点はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

★POINT：「安全で良質な水の供給」「断水・減水・濁水のない安定した給水」「水源の保全」が上位3項目

横浜市水道局の取組について、満足していただいている点として、「安全で良質な水の供給」72.6%、「断水・減水・濁水のない安定した給水」68.3%、「水源の保全」56.1%の順に割合が高くなっています。



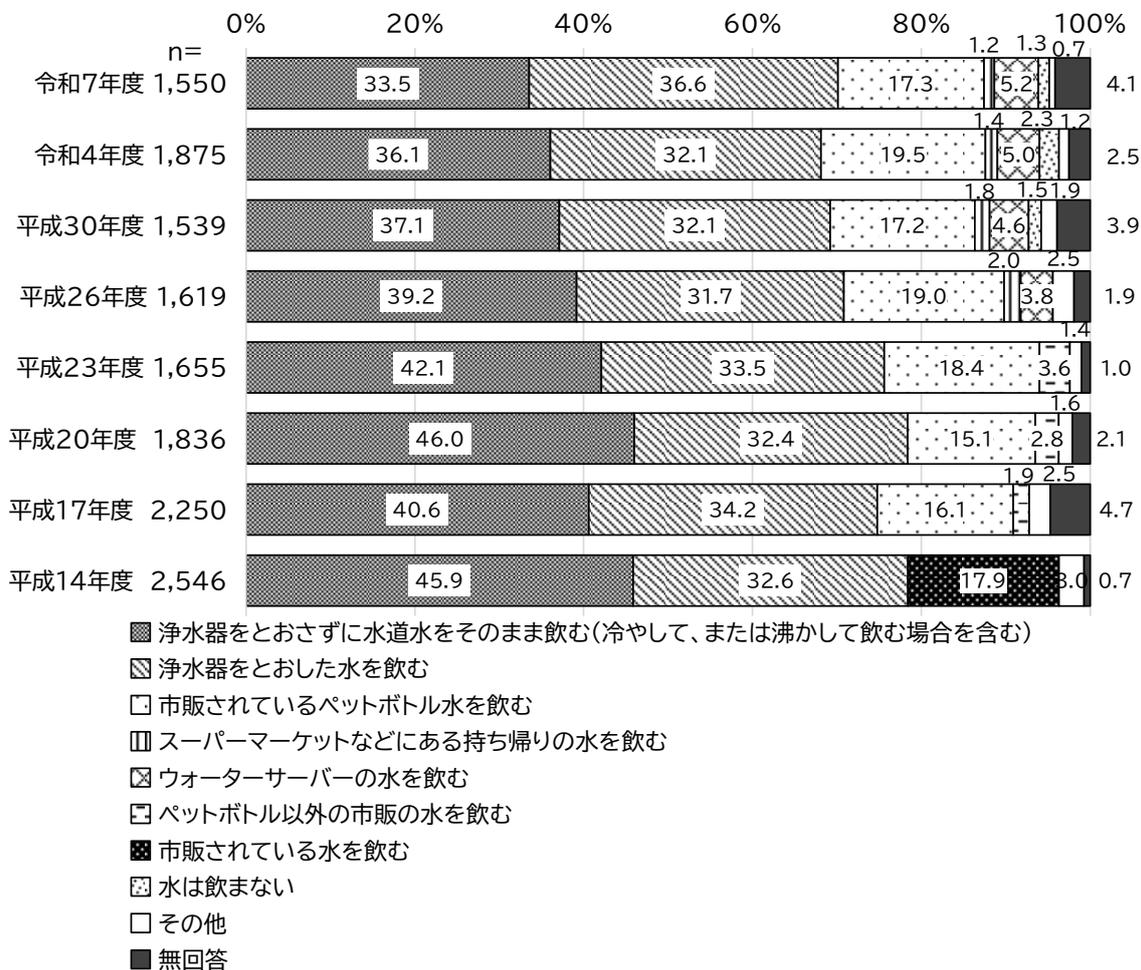
2 主に飲んでいる水の種類

〈市民〉問3 日頃、主にどのような種類の水を飲んでいますか。(〇は1つだけ)

★POINT：70.1%が、水道水を飲んでいると回答（前回調査より1.9ポイント増加）

「浄水器をとおさずに水道水をそのまま飲む（冷やして、または沸かして飲む場合を含む）」「浄水器をとおした水を飲む」を合わせた割合は、令和7年度は70.1%となっており、前回調査の68.2%から1.9ポイント増加しています。

令和4年度までは「浄水器をとおさずに水道水をそのまま飲む（冷やして、または沸かして飲む場合を含む）」と回答した割合が最も高くなっていましたが、令和7年度では「浄水器をとおした水を飲む」と回答した割合が最も高くなっています。



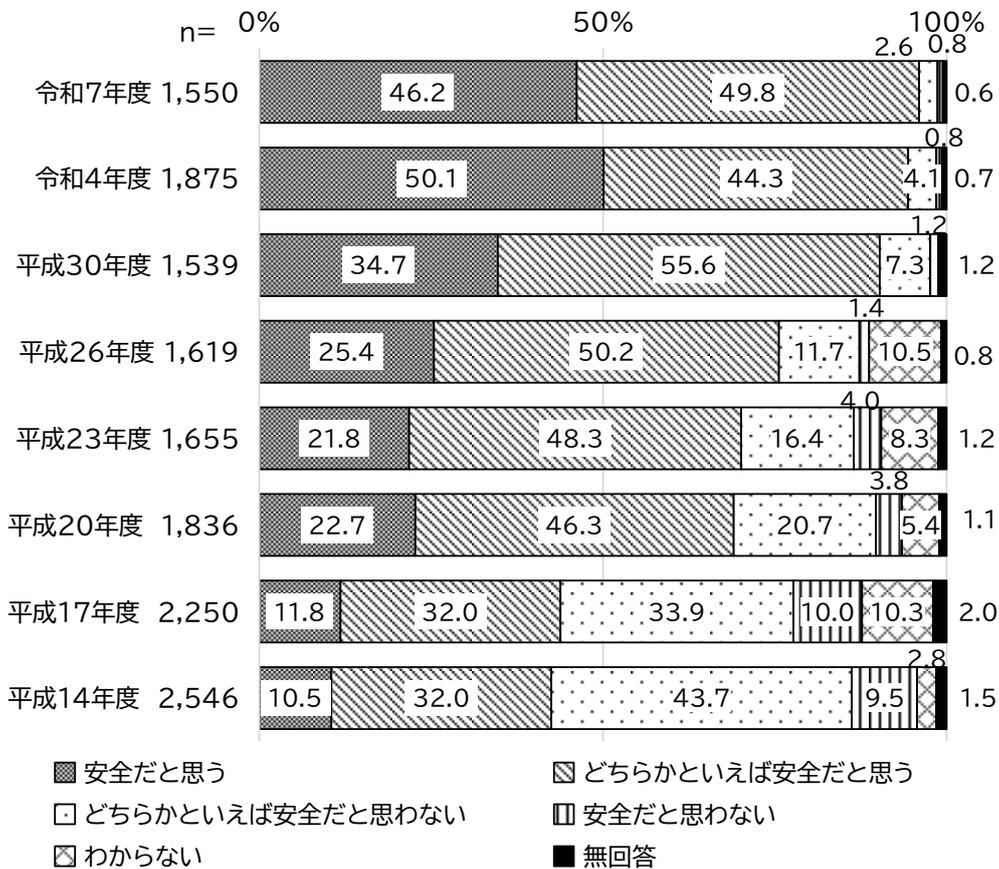
3 水道水の安全性

〈市 民〉問4 横浜市水道局では、安全で良質な水を蛇口までお届けするために、水源地の保全、浄水場での水質検査、古くなった水道管の取りかえなど、様々な取組を行っています。横浜市の水道水の安全性について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

★POINT：96.0%が、概ね水道水を安全と感じていると回答（前回調査より1.6ポイント増加）

「安全だと思う」「どちらかといえば安全だと思う」を合わせた割合は、令和7年度は96.0%となっており、前回調査の94.4%より1.6ポイント増加しています。

平成14年度以降、「安全だと思う」「どちらかといえば安全だと思う」を合わせた割合は、増加しています。



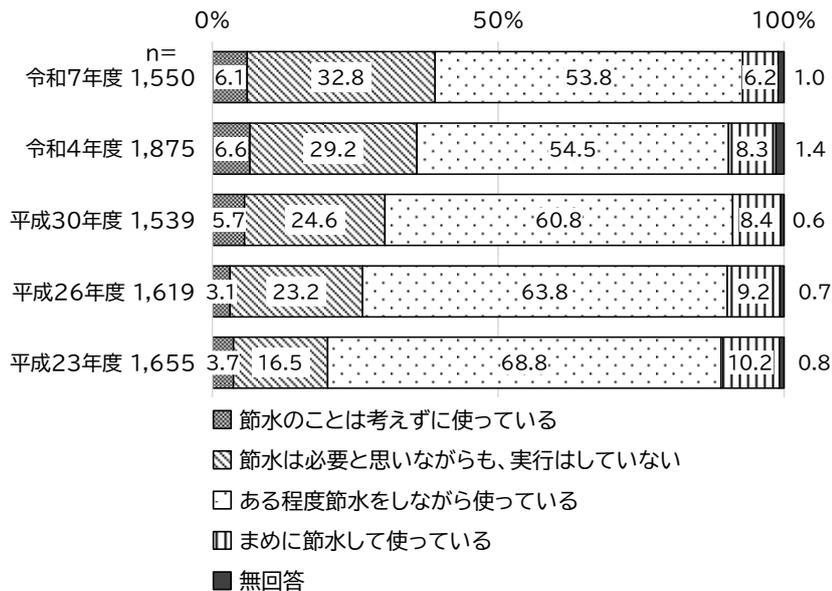
4 節水意識

〈市民〉問6 日頃、節水についてどのように取り組んでいますか。(〇は1つだけ)

★POINT：60.0%が、節水意識があると回答（前回調査より2.8ポイント減少）

「ある程度節水をしながら使っている」「まめに節水して使っている」を合わせた割合は、令和7年度は60.0%となっており、前回調査の62.8%から2.8ポイント減少しています。

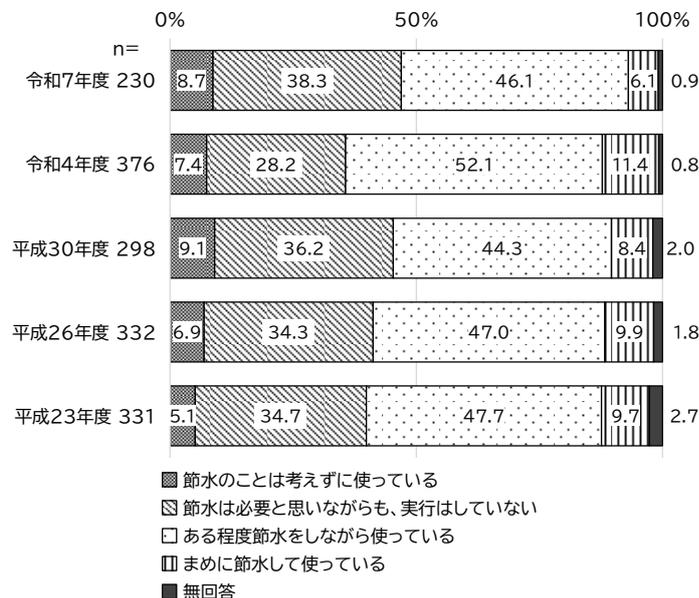
平成23年度以降、「まめに節水して使っている」「ある程度節水をしながら使っている」を合わせた割合は減少しています。



〈事業所〉問6 日頃、節水についてどのように取り組んでいますか。(〇は1つだけ)

★POINT：52.2%が、節水意識があると回答（前回調査より11.3ポイント減少）

「まめに節水して使っている」「ある程度節水をしながら使っている」を合わせた割合は、令和7年度は52.2%となっており、前回調査の63.5%から11.3ポイント減少しています。



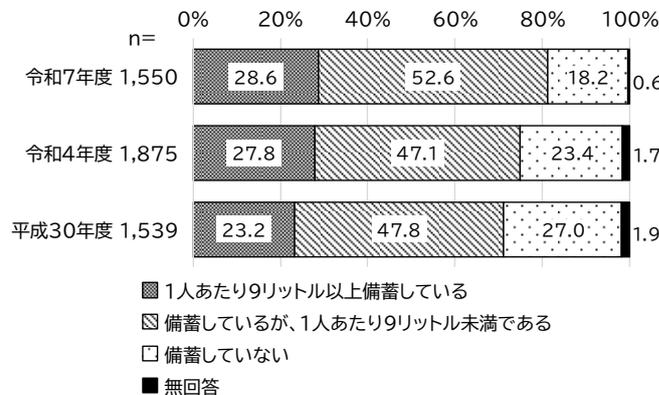
5 飲料水の備蓄量

〈市民〉問9 横浜市では、災害に備え、1人1日あたり3リットル、3日分で9リットル以上の飲料水の備蓄をお願いしています。あなたのご家庭または事業所では、1人あたり、どのくらいの量の飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

★POINT：28.6%が、1人あたり9リットル以上を備蓄と回答（前回調査より0.8ポイント増加）

「1人あたり9リットル以上備蓄している」割合は、令和7年度は28.6%となっており、前回調査の27.8%より0.8ポイント増加しています。

「1人あたり9リットル以上備蓄している」「備蓄しているが、1人あたり9リットル未満である」を合わせた割合は、令和7年度は81.2%となっており、前回調査の74.9%から6.3ポイント増加しています。平成30年度以降、合わせた割合は、増加しています。

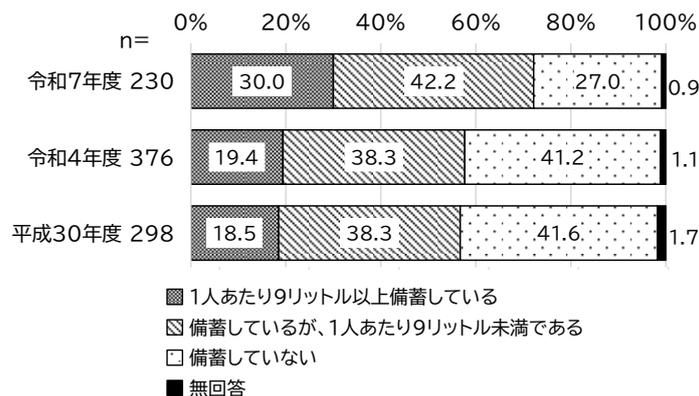


〈事業所〉問9 横浜市では、災害に備え、1人1日あたり3リットル、3日分で9リットル以上の飲料水の備蓄をお願いしています。あなたのご家庭または事業所では、1人あたり、どのくらいの量の飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

★POINT：30.0%が、1人あたり9リットル以上を備蓄と回答（前回調査より10.6ポイント増加）

「1人あたり9リットル以上備蓄している」割合は、令和7年度は30.0%となっており、前回調査の19.4%より10.6ポイント増加しています。

「1人あたり9リットル以上備蓄している」「備蓄しているが、1人あたり9リットル未満である」を合わせた割合は、令和7年度は72.2%となっており、前回調査の57.7%から14.5ポイント増加しています。平成30年度以降、合わせた割合は、増加しています。



6 災害時給水所の認知度

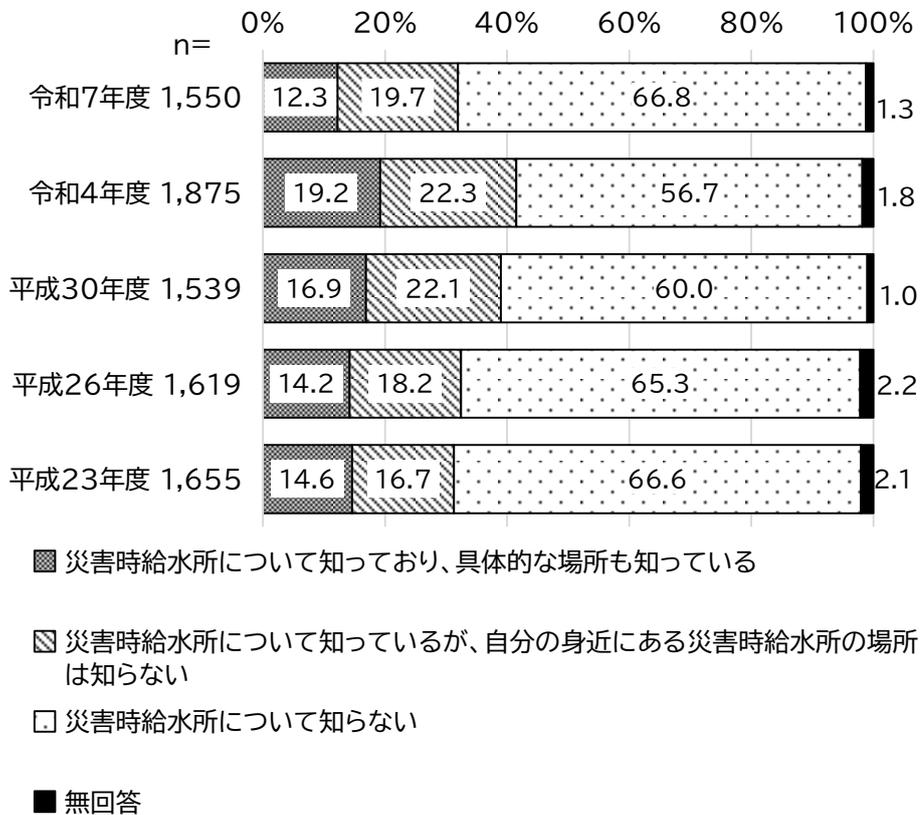
〈市 民〉問 12 横浜市水道局では、地震等の災害時に地域の皆さまが飲料水を購入できる災害時給水所(注)を整備しています。このことについて、どの程度ご存じですか。(○は1つだけ)

(注)災害時給水所とは、災害時に飲料水が得られるように横浜市水道局が整備している施設の総称です。

★POINT：12.3%が、具体的な場所も知っている と回答（前回調査より 6.9 ポイント減少）

「災害時給水所について知っており、具体的な場所も知っている」割合は、令和7年度は 12.3%となっており、前回調査の 19.2%から 6.9 ポイント減少しています。

平成 23 年度から令和 4 年度までは、「災害時給水所について知っており、具体的な場所も知っている」割合は概ね増加していましたが、令和 7 年度では減少に転じています。



7 更新・耐震化のペースの考え方

〈市 民〉問 24 水道管や浄水場などの水道施設の多くは、高度経済成長期につくられたため、老朽化が進んでいます。漏水や震災時における断水を防ぐため、更新・耐震化（注）を進めていますが、物価の上昇等により、更新・耐震化のペースを維持、あるいはスピードアップするためには、これまで以上に費用がかかることになります。

これらの費用は水道料金によってまかなわれていますが、水需要の減少により水道料金収入が減収していくことが見込まれています。

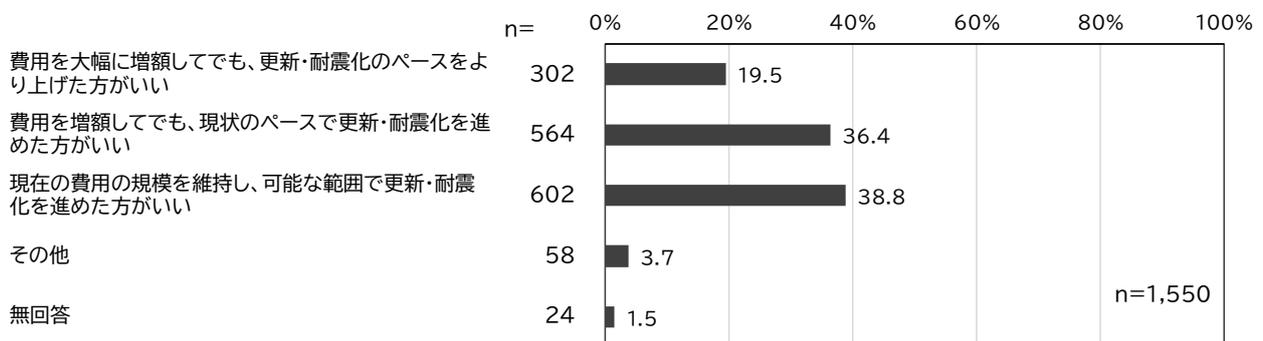
このことを踏まえて、更新・耐震化のペースについて、考え方に最も近いものをお聞かせください。（○は1つだけ）

（注）水道管の耐震化率は34%（令和6年度）です。全ての管路を耐震化するには、現在のペースだと60年以上かかります。

★POINT：55.9%が、費用を増額してでも、更新・耐震化を進めた方がいいと回答

「費用を大幅に増額してでも、更新・耐震化のペースをより上げた方がいい」「費用を増額してでも、現状のペースで更新・耐震化を進めた方がいい」を合わせた割合は、55.9%となっています。

「現在の費用の規模を維持し、可能な範囲で更新・耐震化を進めた方がいい」は38.8%となっています。



〈事業所〉問 24 水道管や浄水場などの水道施設の多くは、高度経済成長期につくられたため、老朽化が進んでいます。漏水や震災時における断水を防ぐため、更新・耐震化（注）を進めていますが、物価の上昇等により、更新・耐震化のペースを維持、あるいはスピードアップするためには、これまで以上に費用がかかることになります。

これらの費用は水道料金によってまかなわれていますが、水需要の減少により水道料金収入が減収していくことが見込まれています。

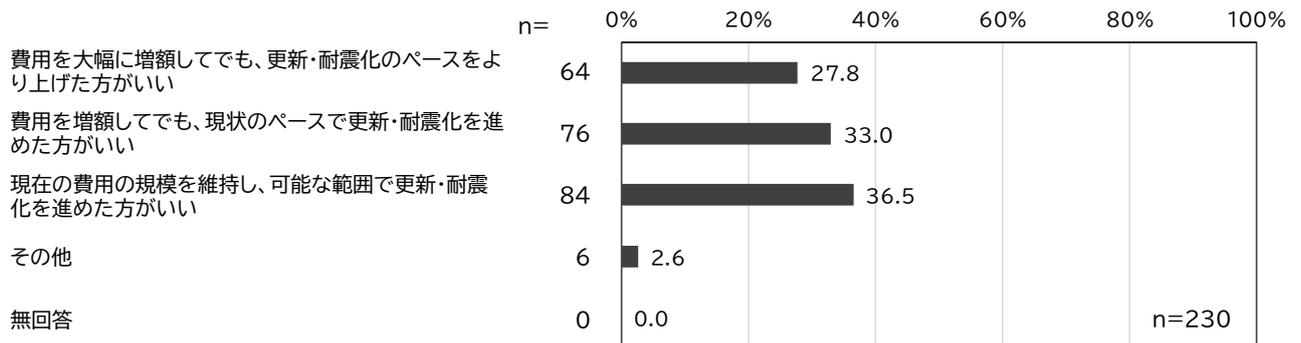
このことを踏まえて、更新・耐震化のペースについて、考え方に最も近いものをお聞かせください。（○は1つだけ）

（注）水道管の耐震化率は34%（令和6年度）です。全ての管路を耐震化するには、現在のペースだと60年以上かかります。

★POINT：60.8%が、費用を増額してでも、更新・耐震化を進めた方がいいと回答

「費用を大幅に増額してでも、更新・耐震化のペースをより上げた方がいい」「費用を増額してでも、現状のペースで更新・耐震化を進めた方がいい」を合わせた割合は、60.8%となっています。

「現在の費用の規模を維持し、可能な範囲で更新・耐震化を進めた方がいい」は36.5%となっています。



8 水道料金の考え方

〈市 民〉問 25 横浜市水道局では、水道料金を財源として、24 時間・365 日、蛇口をひねればいつでも、安心して、安全な水をお使いいただけるよう、老朽化した施設の更新・耐震化や維持管理を行っています。

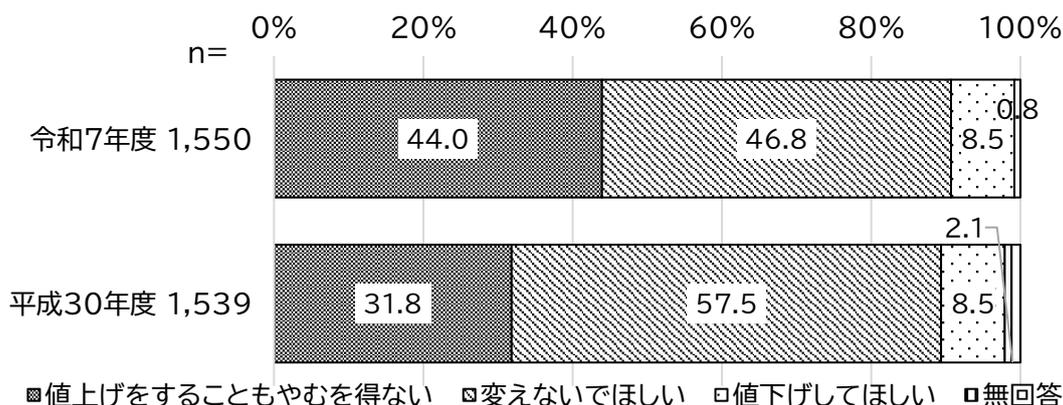
しかし、人口減少社会の到来により水道料金収入が減少すると、現在の状況を維持することが難しくなってくると予想されます。このことを踏まえて、考え方に最も近いものをお聞かせください。(○は1つだけ)

★POINT：46.8%が変えないでほしい、44.0%が値上げすることもやむを得ないと回答

「変えないでほしい」は、令和7年度で46.8%となっており、前回同様の質問があった平成30年度調査の57.5%より10.7ポイント減少しています。

「値上げすることもやむを得ない」は、令和7年度で44.0%となっており、平成30年度調査の31.8%より12.2ポイント増加しています。

「値下げしてほしい」は、令和7年度で8.5%となっており、平成30年度調査と同じ8.5%となっています。

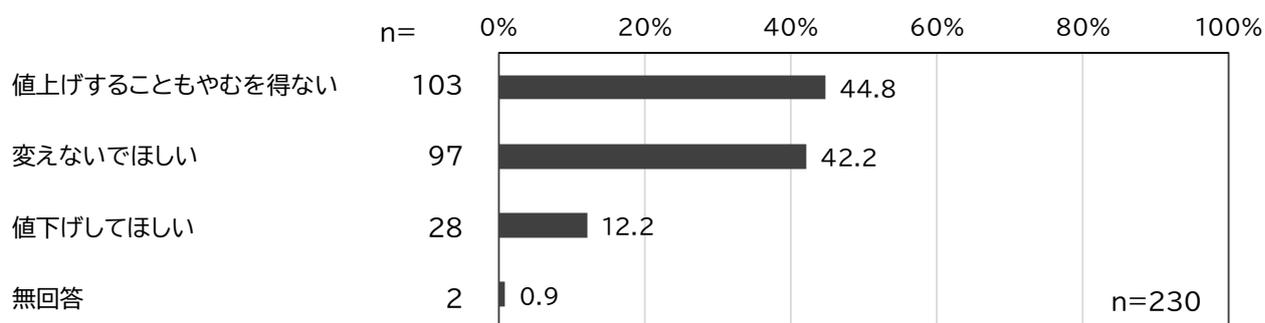


〈事業所〉問 25 横浜市水道局では、水道料金を財源として、24 時間・365 日、蛇口をひねればいつでも、安心して、安全な水をお使いいただけるよう、老朽化した施設の更新・耐震化や維持管理を行っています。

しかし、人口減少社会の到来により水道料金収入が減少すると、現在の状況を維持することが難しくなってくると予想されます。このことを踏まえて、考え方に最も近いものをお聞かせください。(○は1つだけ)

★POINT：44.8%が、値上げすることもやむを得ない、42.2%が変えないでほしいと回答

「値上げすることもやむを得ない」44.8%、「変えないでほしい」42.2%、「値下げしてほしい」12.2%の順で割合が高くなっています。



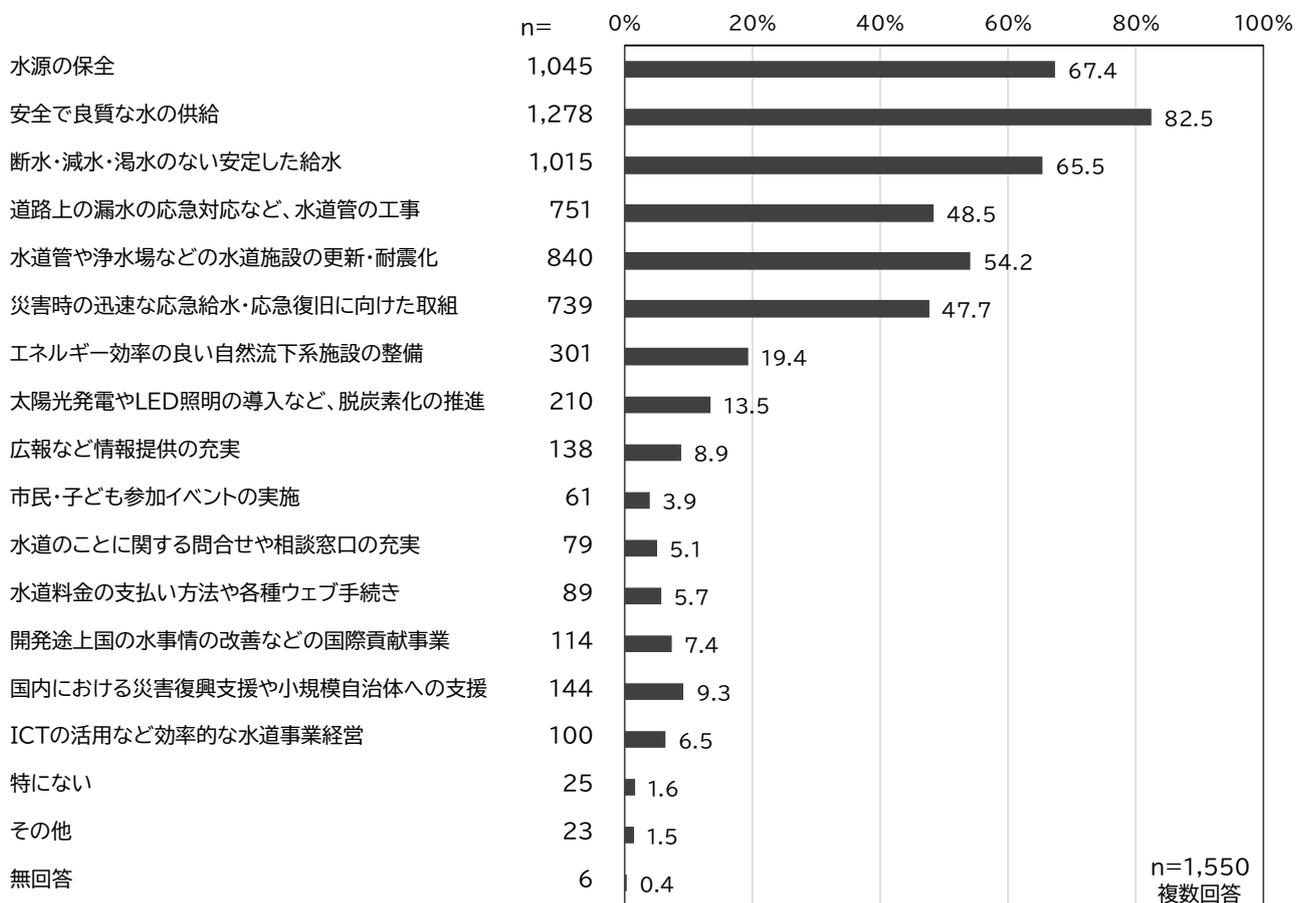
※問 25 の設問について、平成 30 年度調査では、市民のみを対象として実施しています。

9 横浜市水道局の今後の取組

〈市民〉問 26 横浜市水道局の経営は、お支払いただいている水道料金収入によってまかなわれています。横浜市水道局の次の取組のうち、今後、特に力を入れるべきと思う事項はどれですか。(〇はいくつでも)

★POINT：「安全で良質な水の供給」「水源の保全」「断水・減水・濁水のない安定した給水」が上位3項目

横浜市水道局の取組のうち、今後特に力を入れるべきと思う事項は、「安全で良質な水の供給」82.5%、「水源の保全」67.4%、「断水・減水・濁水のない安定した給水」65.5%、「水道管や浄水場などの水道施設の更新・耐震化」54.2%、「道路上の漏水の応急対応など、水道管の工事」48.5%、「災害時の迅速な応急給水・応急復旧に向けた取組」47.7%の順に割合が高くなっています。



〈事業所〉問 26 横浜市水道局の経営は、お支払いただいている水道料金収入によってまかなわれています。横浜市水道局の次の取組のうち、今後、特に力を入れるべきと思う事項はどれですか。（〇はいくつでも）

★POINT：「安全で良質な水の供給」「断水・減水・濁水のない安定した給水」「水源の保全」が上位3項目

横浜市水道局の取組のうち、今後特に力を入れるべきと思う事項は、「安全で良質な水の供給」78.3%、「断水・減水・濁水のない安定した給水」64.3%、「水源の保全」62.6%、「水道管や浄水場などの水道施設の更新・耐震化」56.5%、「道路上の漏水の応急対応など、水道管の工事」47.8%、「災害時の迅速な応急給水・応急復旧に向けた取組」43.9%の順に割合が高くなっています。

